



贈呈式に出席した芳見社長（左端）、柴田教授（左から2人目）、内堀知事（前列中央）、佐野理事長（右端）ら

神田外語大生ら、県内を取材

神田外語大（千葉市）の学生らは26日、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの県内の復興状況を取材し制作した「日英版震災復興新聞」を内堀雅雄知事に贈った。新聞は5千部印刷し、震災と原発事故から15年となる福島を国内外に発信する。

「日英版復興新聞」知事に

贈呈式を県庁で行った。神田外語大を含む神田外語グループ（東京都）の佐野元泰理事長、同大キャリア教育センター長の柴田真一教授、柴田教授のゼミ生で3年の大山豪太さん、セネヒラツナ・カルバナさん、山本悠加さん（埴町出身）が新聞を手渡した。広野町産のバナナを原材料にして造ったビールもプレゼントした。

贈呈式には芳見弘一福島民報社長が出席した。福島民報社の他に学生へ協力、後援した組織などと、贈呈式の主な出席者は次の通り。

▽城南信用金庫 川本浩治（相談役）▽広野町 加藤博行（名誉復興企画部長）▽広野町 盛岡公社 中津弘文（代表取締役）▽大野 大澤幸子（代表取締役） 植村 康介（取締役）▽海野 義孝（山下 一郎）（専務）河合 謙也（常務執行役員 双葉事務所長）▽毎日新聞出版 山本修司（社長）

震災15年 福島は今 国内外へ

内堀知事は、学生の丁寧な紙面制作をたたえ、「情報発信とともに、これからいろいろな体験をしてきてほしい」と励ました。山本さんは「古里から離れると復興の状況がよく分からなかったため、貴重な体験ができた」と振り返った。

知事と学生が座談会

民報ビル

神田外語大は26日の贈呈式終了後、福島市の民報ビルで内堀知事と学生との座談会を開いた。

佐野理事長、柴田教授、3年でゼミ長の関口隼久さん、関口舜矢さん、長田紬さんが出席し、芳見社長が進行役を務めた。

学生は、記事の字数制限が難しかった点や、日本語と英語の表現が違う点などに苦労したと振り返った。内堀知事は「自分の思いを自分の言葉で表現できることがうれしい」と絶賛。「この英字新聞を見てもらい、ふくしまの情報が広がってほしい」と期待を込めた。